

「赤の広場の百貨店」

吉田 眞人

生涯2回モスクワを訪問した。

1回目はソ連邦崩壊迄あと5年の1984年。空港は薄暗く、入国審査官は若くほぼ丸刈り。盗人かスパイかと人を青い眼で睨める。在ロンドンソ連邦大使館発行の査証^{ビザ}シートのみを入念にチェック。日本国のパスポートには手も触れない、そんな物信用できるか、ということだろう。

広場のレニン廟を訪問。唯物論の国なので物理的に遺体を残すのか、と妙に納得。反対側にある3階建ての建物が百貨店となっている。ショーケースも背後の棚もほぼがらがら、辛うじて商品のハンドバックがぼつりぼつりと置いてある。店員は手持ち無沙汰で、且つ不機嫌そうに立っている。方や、客用の通路はレニンへのお参りを終えたお上りさんで大賑わい。殆どが女性で、ウォッカの飲み過ぎなのか男性は稀。大地に確りと根ざしていると思えるぼつちやりした小母さん達で、傍にいただけで安心感を覚える。数少ない貴重な商品を、熱い眼差しで見ても満足の微笑を浮かべている。多分、田舎にはあのような商品さえ置いてないのだろう。

建物の外にジュースの自動販売機があった。勿論使い捨ての容器はない。傍の籠にある分厚い硝子のコップに注ぎ、使用後は水で濯いで元に戻す。やや長い行列で、皆さん大人しく並んでいる。

尚、査証^{ビザ}は出国時に没収、従ってソ連邦訪問の記録は手元には全く残らない。

2回目は2004年。ソ連邦崩壊後15年。レニン廟は健在だが、対面の建物は様変わり。エルメス、グッチ等の店が並ぶファッションビルとなっていた。ショーウィンドウには商品が溢れ、その前を最新モードに身を固めたヤングレディが、携帯電話で話しながら、店には一瞥もくれずに颯爽と歩いて行った。

ロシア連邦の査証^{ビザ}は日本国パスポートに貼付けされており、入出国のスタンプと共に確認出来る。

今、件の百貨店はどうなっているのだろうか。ウクライナ侵攻後西洋ブランドは殆ど撤退したが、最近スタバやマック等の復活も噂されている。

2025年4月10日